



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成27年度 高知市教育研究所 研究員制度

教育課程や学習指導法、学校・学級経営などについて、専門的な見地から調査・研究を行い、教職員として実践的指導力や資質・能力の一層の向上を図るとともに、研究の成果を広く高知市全体に普及し、学校教育の振興・充実に資する。

今年度は、16名の研究員がそれぞれの領域において研究を深めています。

研究内容については、本市の教育課題解決に向けた「生徒指導対策」としての「あったかプログラム・Q-U分析」等を活用した「学級集団づくり」（学級経営領域）や、「学力対策」に関わる研究テーマを設定し、個人研究又はグループによる協働研究（学級経営・授業研究・情報教育・特別支援教育領域）を行っています。

また、授業研究領域（国語）や学校事務領域においては、小・中学校から研究員を募り、小中連携を意識した研究を、人権教育領域においては、人権感覚を子どもたちが育むために、いかに取り組んでいくかというテーマを設定し、それぞれ研究を深めています。

全ての領域が、それぞれの視点をもって、本市の『学力対策第二ステージ』の充実に資するために、精力的に研究を進めています。

「学力対策 第二ステージ」の充実に資するために

高知市の教育課題解決に向けた六つの領域



一年間の研究の流れ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究員決定	入所式 5/21	定例会 6/12	定例会（領域別）	中間報告会 8/24	【全体実践発表】 10/26 授業研究領域（算数） 高須小学校			研究紀要原稿・成果物作成	終了式 2/19	研究紀要完成・送付	
				【グループ研究における実践発表】 10/5 授業研究領域（国語） 青柳中学校 11/13 人権教育領域 南海中学校 12/3 学級経営領域 泉野小学校							
				定例会（領域別）							

研究員中間報告会 平成27年8月24日(月)実施

各研究員が、自身の設定したテーマに関わって「目標」「研究仮説」「1学期の取組内容」「2学期からの計画」等について、プレゼンテーションソフト等を使用して発表しました。

学級経営



「あったかアンケート(小学校)」や「Q-U」の分析をもとに、子どもの課題にあった人間関係づくりプログラムを行うことで、協力・協働し、能動的に活動できる学級集団づくりをめざしています。

山田研究員(泉野小)

人権教育



0~15歳までの15年間を通して、他者とのつながりや人権教育を基盤とした学びを構築し、子どもたちの人権感覚を育むために地域とともにどのように取り組むかについて研究します。

宮地研究員(南海中)

〈算数科〉問題解決の場面において、実生活に近い場面を設定することで、より主体的に既習事項を活用しながら、子どもたちが自ら課題を解決し、算数のよさを実感する授業づくりをめざします。



小林研究員(高須小)

授業研究

〈国語科〉児童生徒が明確な目的をもち、思考・表現することができる課題解決的な言語活動を設定した授業実践について研究します。

今井研究員(行川中) 木村研究員(青柳中) 松尾研究員(鴨田小)



細川研究員(江陽小)

国語科授業づくりにおいて、ICTを効果的に活用した学習場面を設定し、全員参加・全員活動・全員思考のできる授業づくりをめざします。



西岡研究員(潮江東小)



国語科を中心としてICT機器の効果的な活用方法を探り、「できた」「わかった」があふれる授業づくりをめざします。

岩田研究員(潮江南小)

情報教育

「*チャンキングメソッド」を取り入れた英語学習における電子黒板の効果的な利用方法について研究します。

橋尾研究員(一宮中)



算数科におけるICT機器を活用した授業を通して、子どもたちの表現力を育成する方法について研究します。

戸田研究員(神田小)



小1プロブレムの解決に向けて、就学前教育における保育の在り方について研究します。

中平研究員(ひまわり園)



特別支援教育

発達のアンバランスさのある子どもの力を伸ばす指導方法について研究します。

高野研究員(初月小)



具体的客観的なアセスメントにもとづく自立活動の計画・指導の在り方について研究します。

名倉研究員(はりまや橋小)



学校事務

学校事務における小中連携をより一層進め、組織としての学校事務の質の向上、均質化を図りながら「学びを支援する」学校事務をめざしています。

森研究員(潮江中) 岡林研究員(横浜小)



意見交流の場では、各研究員の発表内容に対して、もう少し詳しく聞いてみたいことを質問したり、内容についての感想を述べたりと、意見交換が活発になされました。2月19日に行われる終了式では、研究の成果が報告されますので、多くの方にご参加いただきたいと思います。

* 英文の意味情報の単位としてチャンク(主に2語~8語の意味のかたまり)をとらえ、英文構造を理解し、自立的な英文産出につなげていくこと。